

【支援企業紹介】②



株式
会社

デカルト

ヤマブドウとIT技術で 岩手の未来を描きだす

速報! いわて特産品コンクール受賞者決定! ④

知財セミナーのご案内 ⑥

新職員紹介 ⑥

いわて食の大商談会2014開催 ⑦

ビジネスマッチ東北 ⑦

設備貸与制度のご案内 ⑧

よろず支援拠点のご案内 ⑧

デカルトの これがポイント!

注目の成分「プロアントシアニジン」はヤマブドウの種と皮に存在しているため特許抽出技術を活用してエキスを採取。このサプリメント一粒にヤマブドウ10房分以上の健康成分が凝縮されているのだ。



事業カレンダー

いわて産業振興センターに関連する事業紹介です

11

月 [NOVEMBER]

12日・13日 ものづくりアカデミー・中堅管理者・後継者養成講座(3)

13日 いわて商談会

12日~14日 HOSPEX Japan

19日~21日 ET2014

21日 北東北ものづくり企業医療機器開発・技術展示会

12

月 [DECEMBER]

3日~5日 セミコンジャパン2014

4日・5日 ものづくりアカデミー・経営者・

管理者のための原価低減セミナー

1

月 [JANUARY]

未定 とうほく6県

自動車関連技術展示商談会



1



2



3



4



5



6



7

【支援企業紹介】盛岡市 株式会社 デカルト

インターネット黎明期に誕生 開発力を武器に業務内容を拡大

90年代初頭のインターネット民間利用開始から20年余り、IT業界の技術進化は誰もが想像できなかったほどの速さである。平成8年(1996)に盛岡で創業した株式会社デカルトは、このインターネットの勃興とともに事業を拡大してきた。

当初、ホームページ制作などからスタートした事業は、平成12年頃から業務・教育分野のソフト開発へとシフト。研究開発型企業として、ウェブ図書館書管理ネットワークシステム「e-Libraryシリーズ」や医療現場で使用される三次元画像可視化抽出

システム「シリウス」などの製品を次々にリリースしていく。現在ではウェブソリューションはじめ、ネットワーク構築支援やシステム構築支援など業務内容は多岐にわたる。

なかでも同社が近年力を注いでいるのが、地域密着型ビジネスの展開だ。平成21年には岩手の食を全国に紹介・販売する目的で無料試食サイト「けろっこ」を開設、盛岡や東京でイベントも行うなどして会員数を着実に増やしてきた。「前沢牛だけが岩手の食ではない。地元には、まだまだ知られざる逸材があります」。サイト開発を通じ、誰よりもそれを実感している藤原隆司社長が力を込める。この取り組みの中で出会った食材が、岩手県

今春、岩手産ヤマブドウを使ったサプリメント「黄金 山葡萄の極」を開発したデカルトは、県内IT企業のリーダー的存在。異分野への事業参入を決めた藤原隆司社長に、戦略と展望を伺った。

【いわて産業振興センターに期待すること】
藤原社長は当センターの「起業家大学」の一期生。今後は農業の6次産業化などを目的とした生産者・研究機関・企業等のネットワーク構築と情報発信への支援を期待。

北で生産されていたヤマブドウだったのである。

県産ヤマブドウで健康食品開発 岩手の未来は農業振興にあり

日本固有種であるヤマブドウは、古来より滋養強壮や疲労回復・病氣療養などに使われてきた。近年は研究が進み、主成分のプロアントシアニンと呼ばれるポリフェノールはガンや生活習慣病の原因のひとつである4種の活性酸素を一度に除去できる唯一の成分であることも判明しているという。

「調査するうち私自身が試したくなった」と藤原社長は笑う。岩手県は全国生産量の5割を占めるヤマ

ブドウ産地であり、研究機関が開発した高価な濃縮エキスがあった。自ら飲用し効果を実感した藤原社長は商品開発に着手、健康食品産業への参入はもちろんその主原料を地元で調達するという、全てが県内初のプロジェクトに情熱的に取り組んだのである。そして平成26年3月、摂取が容易で価格も抑えたサプリメント「黄金 山葡萄の極」が誕生した。

販売開始から半年経ち、「黄金 山葡萄の極」は本物志向の健康愛好家への認知・浸透がみられる。その武器が、同社が長年取り組んできたIT技術だ。「インターネットの強みは発信力の高さ。ヤマブドウを知らな

い人を取り込み、新たな市場を開拓できるんです」と藤原社長。さらには香港FoodExpo2014への参加、イスラム圏をはじめとする海外市場への参入準備を進めるなど、すでに海外進出も視野に入れているのである。

長年にわたり県内IT業界のトップを走ってきた藤原社長は「岩手の産業振興のカギは農業」と言いきる。世界的食料危機が来る前に日本は食料輸入国から輸出国への転換を図らなければならない、農業は大きなビジネスチャンスを秘めている。IT技術はそんな農業のブランディングのために使われるべきと考えているのだ。

「岩手の農産物の魅力を、ITを使って伝えていきたい」。思いは、熱い。

ヤマブドウをきっかけに健康産業への展開を

海外において「日本ブランド」は信頼度が高い。岩手県にはまだまだいい食材がたくさんあり、今回のヤマブドウが軌道に乗れば「ルート」ができます。サプリメント企画・販売に取り組む企業は県内では珍しいと思いますが、こういう産業が岩手に生まれる意義は大きいと思います。

技アリ!ポイント

企業データ

会社名 株式会社 デカルト
本社 盛岡市中央通3-17-7
電話 019-606-1070
代表者 藤原 隆司

創業 平成8年(1996年)4月
従業員 9名
業種 サプリメントの製造・販売、インターネット附属サービス業
URL <http://www.dicault.co.jp/>

速報!

いわて特産品コンクール 受賞者決定!

主催／いわての物産展等実行委員会・岩手県

9月18日(木)と19日(金)、岩手県工業技術センター大ホールを会場に「いわて特産品コンクール」が開催されました。

岩手県内で製造される優れた食品、工芸品・生活用品を審査し、県産品の知名度向上につなげようというもので、昭和48年に「特産品コンクール」第1回が開催されてから、今年で42回目となりました。

コンクールは「食品部門」「工芸品・生活用品部門」に分かれ、食品部門には64社150点、工芸品・生活用品部門には31社95点、あわせて延べ95社245点の応募がありました。

審査委員として、岩手大学農学部 三浦靖教授、(株)高島屋 中里治・宣伝部東京店販売促進室、(株)川徳 村田俊也・食品部食品一課課長(食品部門の審査)、(株)かわとく壱番館 佐藤裕子・内丸店店長(工芸品・生活用品部門の審査)、岩手県産(株)長澤由美子・販売推進部商品開発課課長、(地独)岩手県工業技術センター 小浜恵子・食品技術部長、有賀康弘・デザイン部上席専門研究員の以上7名が、厳正に審査にあたりました。

また、食品表示アドバイザーの(有)応用栄養学食品研究所 山口廣治・代表研究員から食品表示について、現地指導をいただきました。

特産品コンクール入賞者には賞状、表彰楯のほか、副賞特典として新聞媒体(岩手日報)による受賞PR広告の掲載や、商品貼付用シールが贈られます。

また、出品商品は「出品カタログ」へ掲載されます。このパンフレットは、岩手県アンテナショップ(東京銀座「いわて銀河プラザ」、福岡「みちのく夢プラザ」)に配置されるほか、各種物産展や商談会でも配布されます。



特産品コンクール受賞商品

【食品部門】

いわて南部地粉そば
(株)川喜[釜石市]



【工芸品・生活用品部門】

螺鈿のジュエリーケース
螺鈿 澤井工房[盛岡市]



特産品コンクール受賞商品

【食品部門】

わらび餅 華
工藤菓子店[西和賀町]



つぼみ
(株)京屋染物店[一関市]



毛がにの極 甲羅味噌あえ
山根商店[宮古市]



【食品部門】

いわての物産展等
実行委員会会長賞

盛川の至宝・宝鮎のギフトセット
日本海洋資源開発(株)[盛岡市]



キャベQソース
(株)浅沼醤油店[盛岡市]



レバーペースト
久慈ファーム(有)[二戸市]



ひがしやまぶりん
～エゴマのプリュレ～
(有)富士屋製菓[一関市]

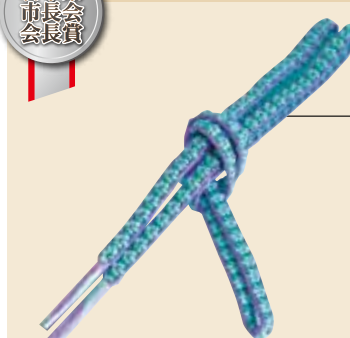


大槌町よっぱらいチーズケーキ
(有)チーズケーキハウスチロル[盛岡市]



【工芸品・生活用品部門】

南部小桜組
染織工芸 組羅人[盛岡市]



創造力を養う組み木
きこり工房[奥州市]



石割桜～東北を銀桜で繋ぐジュエリー～ブローチ
創作ジュエリー工房 SILVER ART KAORI[盛岡市]



【工芸品・生活用品部門】

いわての物産展等
実行委員会会長賞

山ぶどう染織「うれら半幅帯」
糸ばた工房[岩泉町]



鉄山染ストール(シルク)
萩牛生活研究グループ[善代村]



わんこきょうだい碗
(株)浄法寺漆産業[盛岡市]



ブドウ葉ピアス
クレアルチェ
crealce[奥州市]

ロッキングチェア
山口家具[岩泉町]



特産品コンクール受賞商品販売会

【場所】盛岡市菜園「特産品プラザ らら・いわて」
【場所】盛岡市菜園「パルクアベニュー・カワトク」

特産品コンクールの受賞商品を販売致します。
お手にとってご覧いただき、お買い求めください。

【時期】10月9日(木)～14日(火)
【時期】10月20日(月)～11月4日(火)

知財セミナーのご案内

いわて知的財産権セミナー(岩手県・日本弁理士会主催)のご案内 復興支援セミナーin一関

共催:(一社)岩手県発明協会、一関市

日 時:平成26年11月7日(金)13時~17時

講 義:13:00~16:00

相談会:16:00~17:00

場 所:一関市立一関図書館 1階学習室

テーマ:「食品開発と知財戦略」

食品産業界における食品開発の製法特許、商品のネーミングに関わる商標やパッケージデザインに関わる意匠など知財について、事例を交えて学び、企業経営に活用する。

講 師:創友国際特許事務所 弁理士 橋本 京子 氏

知的財産権セミナー・個別相談会in釜石のご案内

主催:岩手県、(一社)岩手県発明協会
共催:沿岸広域振興局、(一社)岩手県建設業協会、
(公財)釜石・大槌地域産業育成センター

日 時:平成26年11月19日(水)13時30分~17時15分

講 義:13:30~16:30 相談会:16:30~17:15

場 所:公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター

テーマ:「建設業経営と知的財産」

知財の活用によって、他社との明確な差別化による競争優位を確立するため、知財の専門家である弁理士と大手建設業知的財産部のOBを講師に迎え、「建設業としてこれだけは知っておきたい知的財産」に関する知識を学び、建設業経営に活用する。

講 師:1.SANSUI国際特許事務所 弁理士 村雨 圭介 氏
2.三菱UFJリサーチ&コンサルティング 大野 茂 氏
(元 大成建設(株)知的財産部長など)

「6次産業化と知的財産」セミナー・個別相談会のご案内

主催:岩手県、(一社)岩手県発明協会

テーマ:「6次産業化と知的財産」

内 容:原料となる農畜産物の生産から商品の企画・研究開発、製造加工、流通・販売までの一連の6次産業化の中での既存知財の有効な利活用や新たな知財の創造・権利化・活用方法について、また、より効果的な情報発信・PR戦略について、知財を活用したブランド化に精通した弁理士と日本PR協会認定プランナーを講師に迎え、「6次産業化に当たりこれだけは知っておきたい知的財産の知識とPR戦略」について学ぶ。

講 師:1.TOHDA特許商標事務所 所長弁理士 東田 潔 氏
2.(株)サンユーコミュニケーションズ
代表取締役 日向 裕司 氏(PRSJ認定PRプランナー)

1.紫波会場(共催:紫波町)

日 時:平成27年1月22日(木)13時30分~16時30分

講 義:13時30分~15時30分

相談会:15時30分~16時30分

場 所:紫波町 オガールプラザ 大スタジオ

2.奥州会場(共催:県南広域振興局、奥州市、金ヶ崎町)

日 時:平成27年1月23日(金)13時30分~16時30分

講 義:13時30分~15時30分

相談会:15時30分~16時30分

場 所:奥州市江刺総合支所 多目的ホール

新職員紹介

センターに9月から
新たに勤務する
職員をご紹介します。

新素材・加工産業集積プロジェクト
事業化マネージャー 山脇 昇

センターとの関わりはすでに8年を超えますが、9月からは新たに職員として勤務させていただくことになりました。常に「岩手県のために何ができるか」を念頭に置いて業務に励みますので、よろしくお願いいたします。



いわて食の大商談会2014が開催されました

主催:岩手県、岩手県産(株)、(株)岩手銀行、(株)東北銀行、(株)北日本銀行、(株)日本政策金融公庫盛岡支店、
JA岩手県信連、盛岡信用金庫、(公財)いわて産業振興センター

8月27日、盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにて、「いわて食の大商談会2014」が開催されました。これは、県内の生産者・食品製造業者と、全国の百貨店・スーパー・通信販売等、販売業者とのマッチングを行うイベントで、毎年開催しているものです。今年も水産加工品や食肉、菓子、野菜・果物加工品、日本酒などさまざまなジャンルの「岩手産」食材が一堂に会しました。

当日は県内から110社の製造業者が出展し、会場を訪れたバイヤー約450名に対し、自社の商品をアピールしていました。業者同士での交流も行われました。

会場内にはテレビ・新聞などマスコミも多く詰めかけ、来場者にインタビューを行う様子も見られ、関心の高さがうかがえました。

達増知事のあいさつのあと、夕方の16時まで商談会が続き、その後の懇親会では、バイヤーと出展者との情報交換が行われました。岩手の食産業のさらなる発展が期待されます。



東北最大級のビジネス展示・商談会

第9回 ビジネスマッチ東北2014

未来へ向けて、つながる東北のビジネス

日時 2014 **11.6 木** 10:00-17:00

会場 **夢メッセ MIYAGI** 夢メッセみやぎ展示棟
www.yumemesse.or.jp/access
〒983-0001 仙台市宮城野区港三丁目1-7

ビジネス展示会および商談会

「情報・IT」「電気・機械」「環境・くらし」「ニュービジネス」「健康・福祉・スポーツ」「防災・減災」「食と農」「観光」「企画出展(産学連携など)」
「学術機関」の10ジャンルの会場構成で、新たな「商品」「サービス」「ビジネスプラン」等を一堂に展示。

■主催/(一社)東北ニュービジネス協議会、(一社)東北地区信用金庫協会、(一社)東北経済連合会、東経連ビジネスセンター、(一財)みやぎ産業交流センター
■共催/みやぎ優れMONO発信事業実行委員会、東北地区しんきん経営者協議会、東北六県商工会議所連合会、(一社)新潟ニュービジネス協議会
■協力/仙台商工会議所

※みやぎ優れMONO発信事業実行委員会構成団体/宮城県、仙台市、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県商工会議所連合会、宮城県商工会連合会、仙台商工会議所、宮城県中小企業団体中央会、
(公財)みやぎ産業振興機構、(一財)みやぎ産業交流センター、(一財)青葉工学振興会、(一社)みやぎ工業会、(公社)宮城県物産振興協会、東北電力(株)宮城支店、(株)テクノプラザみやぎ、(株)七十七銀行

ビジネスマッチ東北2014実行委員会事務局 〒980-0021 仙台市青葉区中央二丁目8番13号 大和証券仙台ビル10階 (一社)東北ニュービジネス協議会内
TEL.022-261-5817 FAX.022-261-2890 URL:http://www.bmtohoku.jp

出展者募集に関するお問い合わせ先 **ビジネスマッチ東北2014 出展者募集係**
[株式会社ブレイン内] TEL022-344-9311 FAX022-344-9315 E-mail:info@bmtohoku.jp **ビジネスマッチ東北**

設備貸与制度のご案内

長期 5年～10年

低利 年1.65%

無担保 金融機関の借入枠とは別枠です

制度の仕組み

「設備貸与制度」は、中小企業の皆様が機械・設備を導入するときに、センターがそれを商社・メーカーから直接購入して、低利で割賦販売またはリースをする、公的制度です。



以下のいずれか1つの条件を満たせば、

最長10年、1億円まで貸付可能です。(リースは除く)

- (1) 経営革新計画の承認企業
- (2) 異分野連携新事業分野開拓計画の承認企業
- (3) ISO9000/ISO14000の認証取得企業
- (4) 加工高に対する県内企業への外注比率が10%以上の企業
- (5) 県内企業5社以上へ下請発注している企業
- (6) 県内企業への下請発注額が年間1,000万円以上の企業
- (7) 申請する設備を設置することで(4)～(6)に該当する企業でも可

東日本大震災で設備または事業所が被災し、市町村等が発行する罹災証明書等の発行を受けている中小企業

最長10年、措置期間2年利息1.55%で貸付可能です。

※一部、対象とならない業種、設備があります。センターにお問い合わせください。

区 分	設備貸与(割賦販売)	リース
対 象 企 業	県内に事業所・工場を有する中小企業 (企業組合・協業組合含む)	従業員20人以下の 県内小規模企業者 (商業・サービス業は5人以下)
貸 付 期 間	原則5年または7年	原則5年または7年
貸 付 限 度 額 (消費税込)	100万円～8,000万円	100万円～8,000万円
対 象 設 備	設備(建物を除く)	汎用設備(車輛を除く)
保 証 金	貸与額の10% (最終償還時に返済)	—
利息(貸与損料) リ ー ス 料	年1.65%	5年=1.822% 7年=1.346%
連 帯 保 証 人	法人:代表者1名、個人事業主:なし	

お問い合わせ

総務・金融グループ

☎019-631-3821

FAX019-631-3830

http://www.joho-iwate.or.jp/setsubi

よろず支援拠点 相談受付中!

公益財団法人いわて産業振興センターでは、企業の皆さまから幅広い相談を受けつける「よろず支援拠点」を設置しております。どうぞお気軽にご連絡ください。

よろず支援拠点の3つの機能

- ① 既存の支援機関では十分に解決できない経営相談に対する「総合的・先進的経営アドバイス」
- ② 事業者の課題に応じた適切な「チーム編成を通じた支援」
- ③ 支援機関等との接点がなく相談先に悩む事業者に対する「的確な支援機関等の紹介」

中小企業・小規模事業者・創業予定者が抱えるあらゆる経営課題に応えることが「よろず支援拠点」のミッションです。経営に関する各種専門家のコーディネーター、サブコーディネーター5名が相談を受け、当センターの保有する各種支援ツールと補完しながら、万全の体制を整え対応していきます。

企業の皆様の経営に関する困りごと、お悩み事がありましたら、問題解決のために是非、当いわて産業振興センターの「よろず支援拠点」をご利用ください。

専用相談ダイヤル 019-631-3826

・よろず支援拠点のイメージ



(公財)いわて産業振興センター広報誌

産業情報いわて

2014年10月10日(毎月10日発行)

■発行 行/公益財団法人 いわて産業振興センター

〒020-0857 盛岡市北飯岡2丁目4-26(岩手県先端科学技術研究センター2F)

TEL.019(631)3823 FAX.019(631)3830

E-mail joho@joho-iwate.or.jp URL http://www.joho-iwate.or.jp/

■編集印刷/川嶋印刷株式会社



この冊子は地球に優しいベジタブルオイルインクを使用しています。